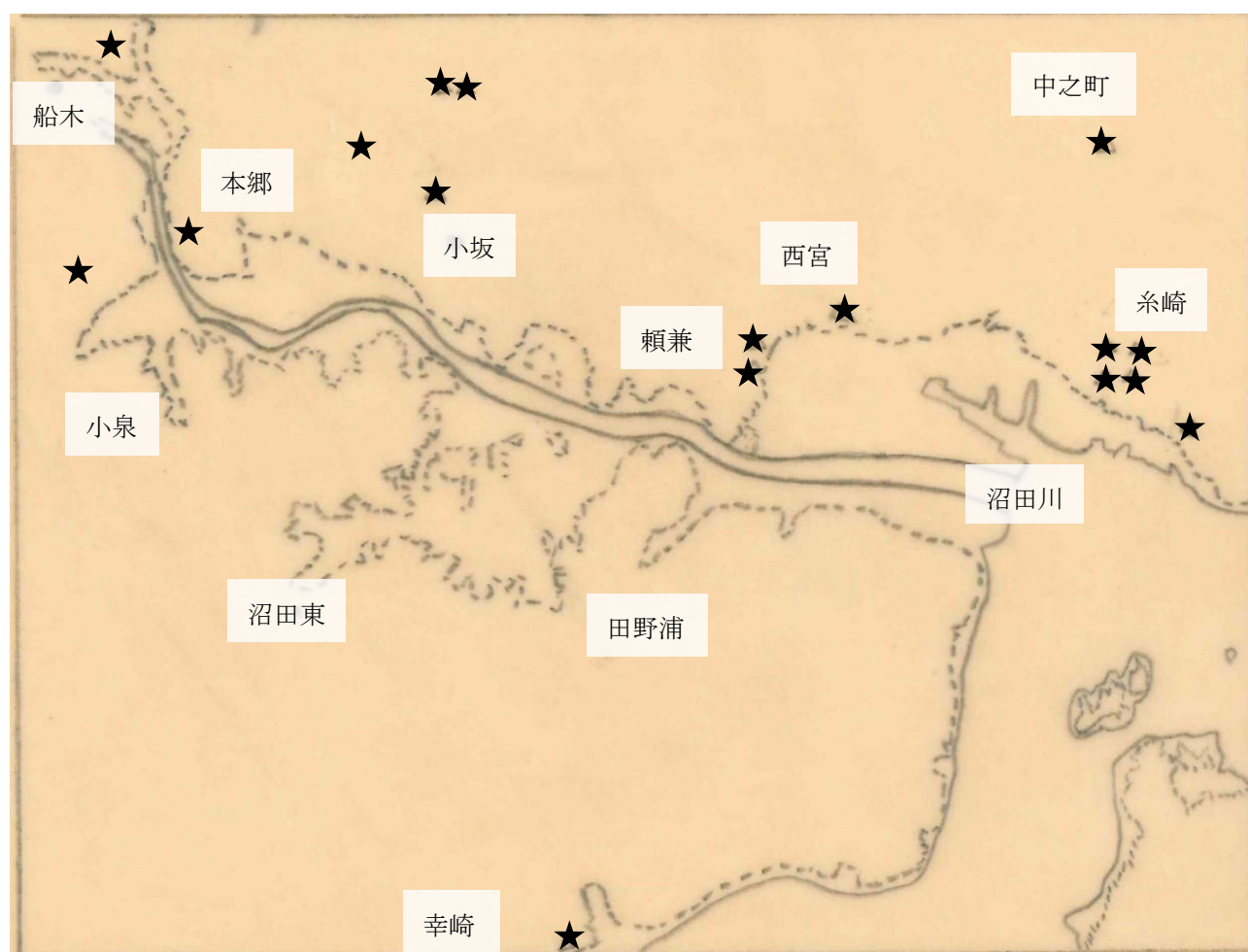


# 三原のお宝 歳出しニュース

— 第 68 号 —

じょうもんじだい  
昔の海は広がった！ 縄文時代の三原



地図の★印は、市内にある縄文時代の遺跡の場所を示しています。

点線が縄文時代の海岸線、太い線が現在の海岸線と沼田川です。※『三原市史 第一巻』から作成。

縄文時代とは、今から約1万2千年前～約2千4百年前ごろの時代にあたります。縄文時代のはじめに、地球全体で気温があがり、人や動物が暮らしやすい<sup>きこう</sup>気候になりました。同時に、地球をおおっていた<sup>ひょうが</sup>氷河や雪が<sup>と</sup>融け、海面が上昇しました。海面が現在の高さになったのは、約6千年前のことです。

縄文時代には船木や小泉周辺まで海が入り込んでいました。また、頼兼や糸崎、西宮にある遺跡は、当時の海岸線のすぐ近くで発見されています。当時の人々が、海辺で生活していたことがわかります。

当時の地形の様子は、遺跡からの出土品からも知ることができます。例えば小坂にある貝持貝塚では、ハマグリ、カキ、レイシ、アカニシなどの貝がらが見つっています。これらの貝は、淡水と海水が混じる汽水域に生息する貝です。このことから、縄文時代には海が小坂近くまで広がっていたと考えられます。

数センチほどの大きさの貝がらは、縄文時代の三原の歴史を現在に伝えています。



- ① ハマグリ
- ② 左 カキ  
右 レイシ
- ③ 左…ウミミナ科  
右…アカニシ

市内遺跡の出土品は

みはらデジタルミュージアム（考古）でも  
見られます！

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/digital-museum/>



三原市歴史民俗資料館

三原市円一町 2-3-2

TEL0848-62-5595

令和5年7月発行

《編集後記》

縄文遺跡の場所を地図に落とし込むと、海の近くに多くあることが良くわかります。

当時の人々の暮らしが伝わってきます。(み)

